

「目代館とお台場ツアー」

2021.4.17

【日程】9：30 泊ふれあいセンター集合・目代館（竪堀・虎口・副郭・空堀・主郭・横曲輪・西校外その他）、館ノ上（稻荷社）見学→10：30 六角大砲場跡（トイレ休憩）→館ノ上大砲場跡・遠見御番所跡→中山崎（北手・中程・南手）大砲場跡・初期の遠見御番所跡（？）の見学 12：30 解散



上北郡内の館や古城について

上北郡内には古城が 95 存在し、多いところは、旧十和田市が 28、旧七戸町が 15、旧十和田湖町が 17、六ヶ所村の 7 か城である。これは、古くは奈良時代・平安時代以前から生活拠点として、中世から近世にかけては、南部氏の支配の戦略上の極めて重要な地域であったことがわかる。

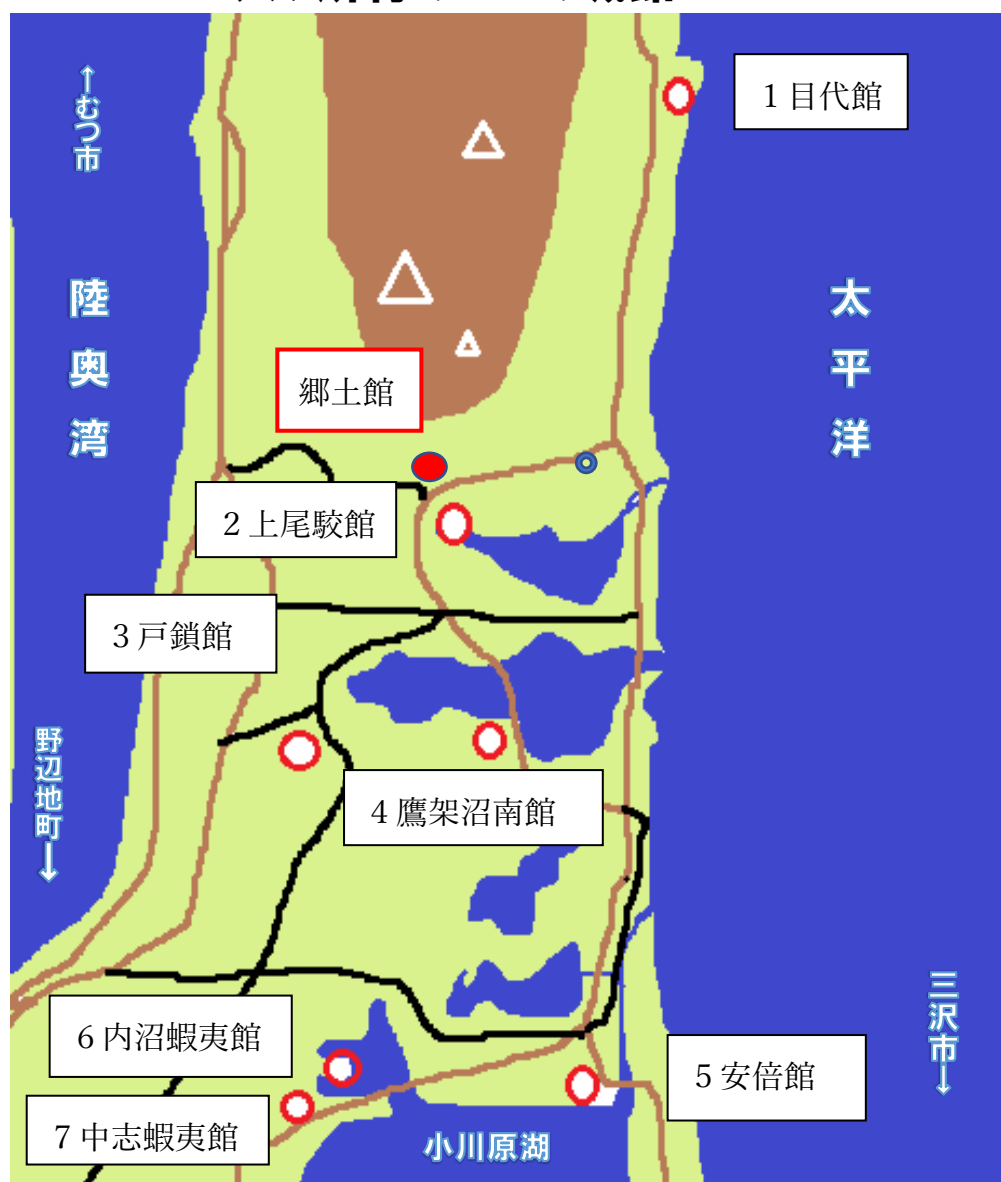
六ヶ所村の城郭は外見上気づかれない陰性が多く、河谷に臨んだ尾根や台地の末端を利用したものが多い。郭内外に住居用の竪穴があり、不意の敵の来襲に備えた防御のもので、防御性集落の特徴を示している。

その他に、方形の郭と堀を有する安倍館。主郭や副郭、堀切や竪堀、虎口や腰曲輪等を有し中世の城郭と考えられる目代館がある。

館の形態は次のとおりである。

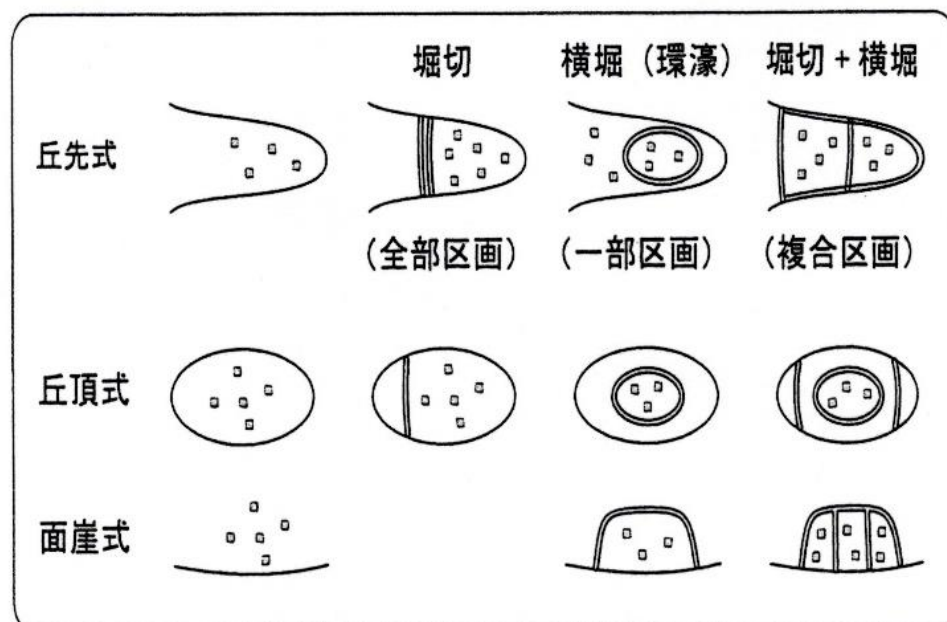
- 1 丘先式：目代館、戸鎖館、鷹架沼南館、内沼蝦夷館、中志蝦夷館
- 2 丘頂式：上尾駁館
- 3 面崖式：安倍館

六ヶ所村の7つの城館



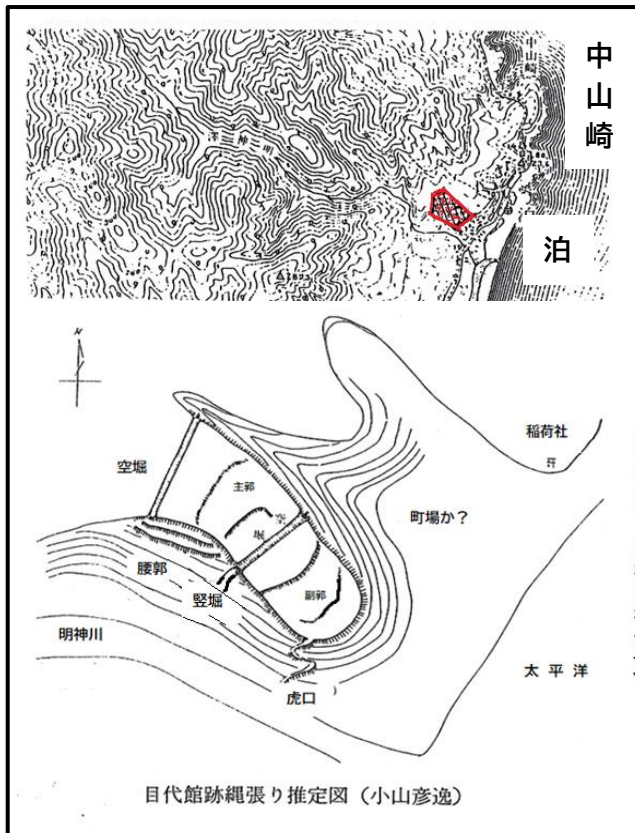
防御性集落の形態模式図

青森県史 「飛鳥～平安」 P353 図Ⅲ-2-2-2-4 より掲載



目代館(別称:メデタテ) 中世 六ヶ所村泊字川原

(平成8年 小山彦逸氏、大槻喜勇氏 : 令和元年 郷土館確認調査)



目代館遠景



三段になっている主郭



東側の堀切



南側の縦堀



南側の二段になっている腰郭

根城南部の目代(城主の代官)か？白糠城と対峙した福士氏の音波城か？

- (1) 位置：泊村西南部、現在の海岸線から 500m ほど西方の舌状台地上にある。北・東・南の三方は急崖をなし、南側が明神川。
- (2) 郭：舌状台地の東側先端に副郭があり、西側に主郭がある。主郭の南側に腰郭が築かれ、副郭の東南部には虎口(登口)があった。郭内にサイカチの大木(葛西一族の目印：伝承では殿様の木)があった。
- (3) 堀：西側後方を防御する空堀と主郭と副郭の間にも堀切があり、南側には、中世城館の特徴である縦堀が見られる。
- (4) 出土物：副郭から江戸時代後期の銅鏡と古い銅鏡、土器片が出土。
- (5) 考察：北方の稲荷神社、通称「館ノ上」も館跡と推測されている。目代館の名は、中世の館主が根城南部の目代(城主の代官)として、東通を支配していたため付せられたか。「東北太平記」にいう、白糠城と対峙した音波城の可能性もある。ただし、当時の城主福士氏と現在の所有者目代氏との関係は不詳。